

6. 今後の研究の展開等

本調査研究は、(独) 土木研究所において昭和初期に建設された増田淳事務所の設計図面が大量に発見されたことをきっかけとする。本調査に参加された福井次郎氏が発見された膨大な図面、設計計算書などを丹念に整理、記録され、図面、設計計算書のコピーが、土木学会に寄贈され手土木図書館に閲覧用として収蔵された。この後、いくつかの図面に関する調査分析が行なわれたが、網羅的な調査は図面、計算書が膨大であることからなかなか進まなかった。一方では、歴史的価値をもつ現存橋の補修、補強、あるいは調査を行なうにあたって図面が残っているものが少なく、橋梁管理者、橋梁施工者、コンサルタントにおいても、図面保管の認識は強くはないことも指摘されてきた。

従来、図面、設計計算書は一時的な文書であって、図書などの文書と同様に継続的に保管されて数十年の時間を経て閲覧されるということはほとんどなかった。この図面、設計計算書に対する認識は、時間の経過した歴史的な橋梁に対する認識と共通するものであって、図面や計算書が史料としてとらえられていないことを示している。そこで、本調査では、増田淳の設計した橋梁について、その図面、計算書を橋梁設計実務者の目で分析することで、その史料性の存在を実例をもって明らかにすることを狙った。

現橋との対比から現存するものを中心に7橋選定して図面、計算書の分析を行った。図面、設計計算書を読み解いてゆくために、当初は、紙の図面を直接、あるいは部分的にデジカメで撮影したものをしながら分析を行なったが、閲覧性を高めるために、試行も兼ねた図面デジタル化を行った。

一方、図面がどのように保管管理されているかの調査も平行して実施した。土木学会図書館委員会、鋼橋技術研究会の協力で実施したアンケート調査、実地調査の過程では、アンケート調査の調査表の作成、発送、集計で、北海道教育大学、および日本大学生産工学部の学生にも協力を得た。また、図面の閲覧や、デジタル化などの面で土木学会図書館、同委員会に多くの協力をいただきたい。図面保管状況のアンケート調査では、その回答で多くの関係機関の協力を得た他、実地調査では、国内外の関係機関に調査員の受け入れ、面談の機会を頂いた。この場をかりて厚く謝意を表したい。

本調査は、対象橋が7橋と限定的であったことに加えて、図面、計算書の分析で必ずしも十分ではない部分も多く、調査を継続する必要があるが、現時点の成果としてまとめた本報告書が、今後の同種の調査研究につながってゆくことを期待したい。

具体的な今後の研究の展開に関する計画としては、今回調査の図面調査をパイロット調査と位置づけて、著名な橋を中心とした図面の分析、デジタル化を進めることとする。その後、橋梁以外の土木図面へと、図面分析、図面デジタル化の範囲を拡げ、歴史的土木構造物の保存修復における図面史料の価値の面からも、欧米における学会等と接触を行いつつ研究を進める。

図面の保存管理の事例調査としては、先行事例としての海外の土木遺産の図面および、建築分野の図面分析、図面保管について調査を継続する。

